

# 8 家具・オーダーキッチンから インテリア空間をプロデュース

建築家とのコラボレーションでデザインから製作・納品まで



## 木材販売会社のショールーム

青森ヒバを扱う木材屋さんの販売促進のため、生活提案として無垢材空間を体感できるよう、キッチンからLD、寝室までトータルにデザインしてつくり込んだ。木の味わいを堪能できる空間となった。

## オーダー家具

日本の無垢材で作るダイニングテーブル。どんな空間にもよくなじむようシンプルなデザインとし、脚部や天板サイズ等を使い手の要望に合わせて様々なタイプを製作する。



## 個人邸オーダーキッチン

「間仕切りのない家」がコンセプトの熟年夫婦のキッチン。見せてもOKな変形ワークトップは人造大理石。週末には大型に広がるバタフライテーブルは楳(シナ)ベニヤに塗装。施主のこだわりを適切なデザインとコスト管理で形にした。



## デザインを形にするために

住宅や店舗などの家具やオーダーキッチン、什器などをデザインして納めるのが私の仕事です。仕事の多くは、設計事務所や工務店とのコラボレーションで、デザインだけでなく、構造、設計、製作、納品まで、一貫して提案・実施していくというのが私のやり方。設計主旨を理解して、そのデザインだったらこの職人がいいという具合に、デザインに合わせて職人を選び、最終的に現場に物を納める引き渡しまで行っています。デザインだけでなく、現実に形としてお客様が使うものを提供できるところが大きな特徴です。

住宅にせよ店舗にせよ、設計者が美しく描いたデザイン画があっても、それが実際に形になるかという難しいときがあります。若い設計者の場合、構造や予算が分からずにデザイン優先で作図していることがままあるからです。そのまま製作会社に渡すと、できたものを見てイメージが違うということが起こります。製作側としては構造的にも予算的にも成り立つようにつくるからです。だから、製作側に意図を伝え、デザインの主旨が活かされるものを作ってもらうようにしていか

ければなりません。そのためには、デザインのことも分かって、素材も分かって、構造やコストも計算に入れてデザインしなくてはなりません。そこを管理して、限られた予算でお客様にとってより良いものが提供できるようにしていくことがとても大事だと思います。それができるのがインテリアプランナーであり、そういう役割を担うパートナーがいるのは、設計事務所や工務店にとっても良いことだと思います。

## デザインを通し、 生活全体に関わる提案を

私がインテリアプランナーの資格を取ったのは制度ができて間もないころ。大学でインテリアを勉強し、地元山形の家具メーカーにデザイナーとして就職して、関東や東海の市場向けに開発したオーダー家具を納めていたときです。名刺に書ける国家的な資格ができたと聞いて、迷わず取得しました。地方の場合、インテリアとかデザインに対する認知度がまだまだ低いため、名刺に書けるのは今も大きいことです。

日本では今、小さいリフォーム・リニューアルの需要がたくさん出てきています。それ

## 信夫正己さん

(しのぶ まさみ)

インテリアプランナー、デザイナー  
2級建築施工管理技士、1級インテリア設計士  
有限会社ワンツ〜 代表取締役



## 《経歴》

1956年山形県舟形町生まれ。東京デザイナー学院卒業。1993年、有限会社ワンツ〜設立。家具・オーダーキッチンの企画、設計、製作、施工管理を中心に活動を始める。その後住宅、店舗、オフィス等のインテリアプランニング&コーディネートにフィールドを拡げ、最上川畔の工房を拠点に日本の木を活かし住み手の立場に立った提案を続けている。

## 《実績》

- ・伊東屋什器製作・施工 (2010)
- ・今田邸オーダーキッチン・食器収納家具・設計・製作・施工 (2014)
- ・イオンモール(大曲店)ORBENE店舗什器製作・施工・管理 (2015)
- ・斉藤邸家具工事・設計・製作・施工(建築設計;針生承一建築研究所とのコラボ) (2015)
- ・自社ブランド;moco商品発表/日本の木+匠の技術+Design=生活道具 (2015)
- ・障がい者支援施設「光生園」理事長・施設長・役員会議室・居室の家具デザイン・製作・施工 (2016) ほか多数

## 《受賞歴》

- ・山形県エクセレントデザイン賞受賞 (2010)
- ・山形県エクセレントデザイン奨励賞受賞 (2012)

にきちんと対応していくのが我々の役割ですが、単なるものの入れ替えだけでなく、デザインを通して衣食住の生活全体を見据えた提案をしていくことが重要です。それだけの提案をするには、プロとしてもっともっと勉強しなくてはなりません。若い人たちは、協会の集まりやイベントを活用して先輩からノウハウを学んで欲しいと思います。そしてそういう専門家の存在を伝えていくことが、一般の人たちにとって必要です。これからの私たちの課題だと思います。